

第 2660 地区 研究グループ交換
(Group Study Exchange)を振り返って



2 0 1 5 年 9 月

第 2660 地区 GSE アルムニ会

目 次

GSE アルムニ会会長ごあいさつ	1
ホームスティ受入ロータリアン、通訳からの寄稿	
小林 澄子（守口イブニングロータリークラブ）	3
西川 亨（大阪堂島ロータリークラブ）	4
秦 博文（豊中南ロータリークラブ）	5
城ヶ辻 保（大阪堂島ロータリークラブ）	13
芳賀 直美（大阪 SGG クラブ会長）	14
派遣団団長、団員からの寄稿	
中村 雅美（1974-1975 年度第 536 地区カナダ西部派遣）	15
藤田 佳久（1981-1982 年度第 983 地区オーストラリア派遣）	17
松岡 茂雄（1990-1991 年度第 7690 地区 米国ノースカロライナ州派遣団長）	19
播本 裕典（1999-2000 年度第 1030 地区イングランド北東部派遣）	22
清水（旧姓米澤） 史恵（2000-2001 年第 1560 地区オランダ派遣）	25
野村 正勝（箕面千里中央ロータリークラブ 2008-2009 年度 第 1770 地区フランス派遣団長）	26
山本 茂雄（2008-2009 年度 1770 地区フランス派遣）	29
佐藤 俊一（大阪鶴見ロータリークラブ 2009-2010 年度 第 5870 地区米国テキサス州派遣団長）	31
伊藤 耕志（2012-2013 年度第 1890 地区ドイツ北部派遣）	33
写真集	
GSE フェスタ（2004 年 5 月 23 日）	35
GSE 振り返りの会（2014 年 9 月 6 日）	38
資料集	
派遣団員一覧	39
付録	
付録 DVD 保存データ	43

ごあいさつ

国際ロータリー第 2660 地区

GSE アルムニ会 会長 生田 英輔

「GSE 振り返り冊子」をお手に取っていただきありがとうございます。今まさに、本冊子を読もうとされているあなたは、程度の差こそあれ、何らかの形で GSE あるいはロータリー財団のプログラムに関わられたご経験をお持ちかと思います。私と同じくと言っては失礼ですが、国際ロータリーと深く関わった経験がないにも関わらず、GSE プログラムに参加する機会を得て、多くのロータリアンや財団学友のサポートを受け、海外へ飛び立って、無事プログラムを終了された方も多いかと思います。

その気になれば国際ロータリーの精神・活動に関する情報は書物やインターネットでも大量に得られますが、まさに百聞は一見にしかずで、GSE の 1 ヶ月間の経験で、国際ロータリーの精神・活動そして偉大さを身をもって学ぶことが出来ました。加えて、日本にはなかなか理解が深まらない、派遣国（私の場合はトルコ共和国）の政治・経済・文化・宗教に関しても、日々理解が深まりましたし、派遣地域（私の場合は中東）がニュースに出ると、とても対岸の火事とは思えない心境となります。さらに、同じ派遣チームの団長・団員との立場・職業を超えた交流は今でも続いています。

そして、プログラムが終了し、数件の卓話をさせていただきながら、本務に没頭して半年が経過した時に突然降って湧いた GSE アルムニ会の会長職。これも何かの縁と思い、お引き受けさせていただき、早 7 年半が過ぎました。この間、2008 年にはロサンゼルスでの国際大会における学友行事への参加、新設されたロータリー日本学友会への参加など、微力ながら 2660 地区の GSE 学友を代表して他地区学友と積極的に関わってきました。もちろん、2660 地区においても、GSE 派遣チームのサポート、GSE 受入れのサポート、新入団員歓迎会、PSC との合同忘年会、地区大会への参加・展示、卓話等、他の会員およびロータリアンと力を合わせ取り組んで来ました。

これらの活動がいったいどれだけロータリーに、そして社会に貢献できたのか、振り返ってみても明確な答えはありません。しかしながら、GSE というプログラムの特性上、派遣団員は 2660 地区を中心とする地域で、それぞれの組織・社会で中核を占める立場になっています。25～40 歳という時期に、国際ロータリーの精神に触れた経験を持つ社会人が世界的ネットワークを形成しているという事実は、他の組織には成し得ない稀有な存在と思います。

残念ながら GSE プログラムは一旦終了となりましたが、2660 地区での GSE の軌跡を振り返り、地域社会と国際平和に貢献できるポテンシャルを持った GSE プログラムを記録するために本冊子を発行することにしました。ご一読後は、周辺のまだロータリーを知らない方にもお勧めいただき、GSE という素晴らしいプログラムがあったことを記憶に留めて頂ければ幸甚です。

最後になりましたが、2660 地区 GSE の諸先輩方、支えて頂いたロータリアンとそ
のご家族、他の財団プログラムの皆様、世界のロータリアンと財団学友に深甚なる謝意
を表します。また、本冊子の編集にご尽力頂いた 2660 地区最後の GSE チームである
ドイツチームにも謝意を表します。

守ロイブニングロータリークラブ

小林 澄子

シャイで人懐こくて旅行会社勤務の賢い女の子ベンギス・カブラール（トルコ）を2007年3月26日～4月1日までホームスティしました。当初はナーバスな様子でしたが、箸づかいが上手になると共に日に日に打解けてくれました。2010年2月に地区国際奉仕のトルコ視察でホテルを取ってもらいましたが、サムスン、アンカラ、メルシンと申し分なく目的に合ったりザーブがしてありました。「トルコにいる娘に会いに来て、私を忘れないで」といってくれましたが、団体でしたのでアンダルシアまでは足を伸ばせませんでした。2011年の東日本大震災の時には、ベンギスは勿論、今まで親睦を深めた方達からすぐさまお見舞いと励ましのメールが来て、ロータリーは世界を繋げていると実感しました。GSEは優秀な人材が来て真摯な態度でしたのでやりがいがありました。



我が家でのウエルカムパーティ
メンバーはベンギスのプレゼンテーションを楽しんでいます。



ヨットでの BBQ



30万円の京友禅がよく似合って



さよならパーティでの私のスピーチを心配そうに見守る娘

GSE はすばらしい

大阪堂島ロータリークラブ

西川 亨

数年 GSE 受け入れに関与させていただいて、積極的に協力なさっているロータリアン、その家族の大変な努力、友情、すばらしい幸せな感動。改めて、ロータリーの奉仕活動に誇りに思います。

皆様の蒔かれたすばらしい種が、きっと世界のどこかでいつか花咲く時、家族や次世代の人達が相互理解を更に深め合い、世界平和の喜びにひたれることと信じます。

昨年 2013 年ドイツ北部チーム受け入れに関与した一幕を紹介させていただきます。

チームの一員、イザ・シャウプ嬢は歯科医とのことで、母校の大阪大学歯学部付属病院に職業研修としてご案内しました。幸運にも病院長自身が早朝から丁重に各科を訪問、各科長や医員等と熱心に歯科医療に対する理論、技術、機械や材料等に至るまで討論し合い、長時間に渡る熱意ある努力に感心した次第。

後日、伝統的な茶道の本質を体験したいという本人の希望があり、伏見町にあるすばらしい有名なお庭と茶室を訪問。芸術的な四畳半での茶道の室技と解説、熱心な質疑、神秘的な時間。

その後、近くにある日本の医学発祥地「適塾」を見学。中之島散策時、色々な話の中で先だって訪問した阪大歯学部での顕微鏡下の手術見学时、医員や卒後研修医の為、術者と同じ視野で見られる特別の顕微鏡を覗き、最先端高度技術の理論、手術進行実技を直視できたこと。又、そのレンズがドイツ製であったことが大変嬉しく、今回の訪問の中でも特に印象的であったと語られた。

このように非常に熱心に、又細かく積極的に研修されていたことが、同じ道を歩む一人として大いに感動した幸せな一幕でした。

豊中南ロータリークラブ

秦 博文

GSE(研究交換)レポート H21. 4. 16(木)
例会時

財団委員長

秦 博文

まだ、GSE の余韻が残っている今、頭の中にとぎれとぎれの英単語がめぐっており、broken and broken English を交えながらレポートします。

この度、何の因縁か（仏教的受け止め方?）、ホストファミリーをすることになり、どうなることかと不安を抱きながら、先ずは、3月14日(土)午後、ガバナー事務所で GSE 委員会の吉崎さんより手ほどきを受ける。3月31日(火)ハイアットリージェンシー大阪ホテルの Welcome Party に家内と出席。初めてのことでドキドキしながら、初めてフランスチームと顔合わせ。Emmanuel SCUTO さんに「初めまして」と言われ、何と言っているかわからず、「あぁっあ」でごまかす。profile で見る写真よりスマートで男前で「おお！カッコいい！」と何となくホッとする。

「second family ?」と言われ、「Oh Y e !」だけしか答えられず、再会を待つことに。

4月5日(日)

午後5時頃 First host family の表さん（大阪初スト RC）の夫君（東大阪東 RC）と娘さん（英語が出来る）の二人で SCUTO さんを連れ



て来られ、緊張。表さんにも上がってもらい、本堂も見てもらったり。SCUTO さんは、早速質問、お茶を体験されてきたようで、「Tea Service では、畳の縁を踏んではいけない（動作で理解できた）」

「ほにゃら OK ?」と。娘さんが通訳で「本堂に入るのに、してはいけないマナーはあるか」など聞かれた。座敷には、お雛さんの七段飾りを、珍しいだろうからと、3月から片付けずに飾ったままにしておいた。表さんの娘さんに「早く片付けないと娘が行き遅れるんだけど、あなたのために片付けないでおいた。」と通訳してもらった。彼は、雛段飾りを見て「Oh wonderful !」と喜んでいて。早速、写真を撮ってメモ。いつもは、早めに仕舞うのだが、今回は4月まで飾っておいた。

ただでさえ行き遅れているのに、これで娘がまた行き遅れてしまう！！と、きわめて複雑な思い。表さんから「何でも食べられますよ」「パソコンは可能か？」「朝は・・・」「お風呂は・・・」などお聞きし、引き継ぎ完了。

2階の座敷に案内して「This your room」、トイレ、お風呂の場所を案内して「ここ push」と英語か日本語かわからない言葉遣いで使い方を説明。とにかく、口ごもりながら、手と体の動作で説明。分からない時は、何か言って尋ねてくるが、言葉が分からないので、何度も実演して、SCUTO さんが、「OK ! OK !」と言ってくれ、ホッとする。

毎日の朝食時間 7:30 と決め、家を出る

のが、8:10~8:30（私のお参りの関係で日によって違う）、9:30 までに HHEP(Hotel Hankyu Expo Park) まで送ることを説明。IM1・2組は HHEP を key station にして、朝そこへ送り、日中プログラムの担当クラブが迎えに来る。プログラムが終わると、担当クラブは責任持って HHEP に連れてくる。日によって異なるが、大体 5:30~6:30。そこへ Host が迎えに行き、家に連れ帰るという形を取っている。そのことを確認。それが終わると彼が、時計を指さしながら「ほにゃら~dinner、time?」(そこだけ分かった)と聞いてくるので、「seven half OK?」と私、「yes OK」と言って2階に行って服を着替えて、すぐにノートパソコンを持って来た。事務室のパソコンケーブルにつなぐとすぐさまレポートを打ち始めた。

7:30 夕食。家内は、緊張しながら、もてなそうといろいろ cooking。Miso soup、茶碗蒸し、ワケギのぬたなど日本食と唐揚げ、ハム、パン、人参サラダなど洋風のものを取り混ぜ、service。珍しいだろうから家内が朝から赤飯を炊いて「SEKIHAN party」にした。「SEKIHAN is celebration in JAPAN, birthday, festival. this SEKIHAN is your welcome celebration」で意味が通じたよう。「forme!, thankyou thankyou very ほにゃら」と喜んでくれた。

日本食に興味があり、箸を上手に使いながら食べられる。聞けば、お母



さんがインドシナ半島諸国に居たことが

あって（仕事か何かは分からない）、箸の使い方を子供の時に教えられたとのこと。his wife ソフィーさんは、アジアに関心があり、漢字を習っている。お茶もいろいろ好きで、食事の時に玄米茶、そば茶、すべて味わってメモされる。

SEKIHAN、茶碗蒸しなど、すべて写真を撮って記録される。SEKIHAN is boiled rice with small beans, white change red. SEKI means red, HAN means rice. CHAWANMUSI is steam eggs soup. fish chicken mushroom shrimp in to. で分かったかな?。実際に食べながら、説明したから分かったのでは?。ちょうど大河ドラマ「天地人」をやっていたので、それを見て、「Edo period?」と聞いてきた。「Sengoku period. fight and fight period. before Edo period.」と答える。

食事が終わると、すぐパソコンに向かって今日一日の記録を打ち始める。私も、paper work があるので、二人一緒にパソコン作業。11:00 過ぎても終わらない。いつ風呂に入ってくれるのかなあ、と不安、こっちも寝るわけに行かないし……。ようやく 12:00 前に終わって、”shower OK?”と聞いてくる、”OK、OK”と答える。2階に上がって浴衣に着替えて shower に。早よ出てくれるかなあ、と思っていると10分か15分くらいで出てくる。湯船に入ったのか shower だけなのか、単語力がないから聞けず、ともかく、風呂はすぐに終わって2Fへ。寝るときの浴衣はどこで手に入れたのか、持ってきたのか、ホテルでもらってきたのか、これも聞けず不明。背が高いので、ちょんちょんに短い浴衣。私と家内は彼のあとにお風呂に入って、1:00 頃就寝。彼は、

出かける時、室内の時、寝る時、きちんと着替えられている。几帳面でキチンとされていました。

彼は、「Oh excellent!」「Oh wonderful!」「Oh fantastic!」「Oh delicious!」「ほにゃなら nice ほにゃらな」といろいろ表現してくれるが、こちらは、「Ye! so good!」の相づち一点張り。単語力の無さを嘆くばかり。

ともかくにも、こうして Host の一日目は、始まった。

4月6日(月)

2日目の朝、7:00 に浴衣で起きてきて、洗顔。すぐに着替えて昨夜から充電していたパソコンに向かって続きを打ち出す。7:30「breakfast ready」と言う朝食へ。いつもより早く起きた家内が、日本食、みそ汁、海苔、ご飯、レンコンとゴボウのきんぴらなどと、もし食べないといけないので、パン、ハム、カボチャサラダ、ブロッコリーなども用意。教えると彼は、ご飯に海苔を乗せて箸ではさんで上手に食べる。ちりめんじゃこ、金山寺みそ、みそ汁、すべて上手に食べる。ついでお茶漬を教える。毎年、正月のお鏡を薄く切って乾燥させておかきを作っているが、そのおかきを割って、ご飯に乗せ、お茶を注いでお茶漬にする。私たちの朝食であるので、マネさせる。彼は、箸で挟もうとするので、「こうやってすするんだ」とやってみせるが、「すする」のは苦手なよう。日本食だけを食べて、朝食が済むと、再びパソコンに。8:10 昨夜の指示通り、出立。時間はきちんと守ってくれる。

私は一年通して、毎日ほぼ 8:30 にお参りに出発する。HHEP へ送らないといけないので、いつもより早く家を出る。彼に

は、一軒目の檀家さん my temple's member に一緒に行くと、夕べのうちに伝えてある。浄土宗のハワイ寺院で使っているお経の本「OTSUTOME」を入手していたので、それをコピーして渡してある。その本は、我々の読むお経をローマ字表記で書いてあるので、一緒に読むことが



出来るので、持たせて一軒目のお家へ。一緒に座って、お経を読んでもらった。回

向(えこう、その家の位牌を読んで供養すること)の箇所は、「I call died person's buddhist name to be peaceful」と言う「ancient?」と聞くので、「yes」と答える。一軒目のおつとめを終わって、HHEP へ連れて行く。委員長クラブの茨木東 RC の担当者に引き継ぎ、私は、「return my job」と言って、普段のお参りに戻った。午後、急いで、座敷のおひな段飾りを片付け、5月の兜飾りに代えた。

夕方、今日は、委員長クラブの茨木東 RC が、host の負担を一つでも減らすために、夕食会をしてくれたので、7:30 に迎えに行く。火曜日に友達に会うために梅田に行くと言っていたので、モノレールで迎えに行き、一緒に歩きながら、千里中央で subway への乗り換えの仕方、monorail 柴原駅から、歩いてお寺まで帰る道を教えた。

帰宅すると、早速座敷の兜飾りを「Boy's Festival decoration」と紹介。「Oh exotic ほにゃなら」と、すぐに写真とメモ。翌朝の breakfast 7:30、start 8:20 を確認して、すぐさまパソコンに。今夜も same last night であった。

4月7日(火)

昨朝と同様、私たちと同じ日本食。拙宅では、毎朝食には、健康のために果物にヨーグルトとヤクルトをいただいている。ヤクルトはよほど気に入ったようで、乳酸飲料で、便秘にいい、と言うと、チームの仲間困っているのが居るからと2本持って行った。カメラにも納め、空容器を大切に持って行った。どこで売っているのか？と聞かれたが、これは、deliveryでしか手に入らないという、とても残念がっていた。よほど良かったようです。

やはり、一軒目にお参りを一緒にして、HHEPへ。彼は、タベ、クリーニングしたいからランドリーを教えてくれ、と言っていたので、「your clothes mywife wash」と言ったら、ドサッと溜まっていた衣類を持ってきた。家内は一日洗濯に追われた。

夕方、委員長クラブから電話、「SCUTOさんが来ない、ホストも来ない、どうなってる？」と。彼が直接梅田に行くと聞いていたのでHHEPへ私は迎えに行かなかったのだが、委員長クラブは引き継ぎの責任があるので毎日確認のためにHHEPに来ている。どちらも行かなかったのが連絡があったわけで、変更は必ず委員長クラブに届けるということをしなかった私のミスであった。一応確認のために彼の携帯に電話、ちょうど梅田の紀伊国屋で友人と出会ったところであった。無事梅田に居たことを委員長クラブに電話し、安心してもらった。

さて、友人と会うのは一応安堵したが、夜、9時半になっても帰って来ない。預かっている責任があるので、彼の携帯に電話、同行している日本人が電話に出て

くれて、今梅田駅とのこと。責任があるので、電車に乗るまで見届けてくれ、と言っておく。彼自身のことは全く心配してないが、何かトラブルに巻き込まれてはと、一応、モノレール柴原駅の近くまで迎えに出ておく。10:00 教えた通り、駅から間違いなくこちらに歩いて帰ってきたのでこれで安心した。私の手を振る姿を見て、「amigo!」と寄って来て、夜道をお寺に戻った。帰宅してからは、前日と同様。帰宅が遅かったのも彼も12時を回って就寝。私はまたもや1:00ごろ。平生からその時間帯まで仕事をしていることは多いので、平気ではあるが、寝不足にはなる。

4月8日(水)

いつもは7:00頃から準備するのだが、彼に見せるため6:00から花祭りの用意。今は特別の行事をしないが、「花御堂（お釈迦さんの誕生仏の御堂をお花で飾り、湧かした甘茶をかけるようにする）」を毎年、山門に飾っている。タベのうちに言っておいたので、7:00に起きてきて、早速、写真。「April 8th SYAKA BUDDHA birthday. He born, walk seven step and say all one valuable up heaven to earth.」と言ってみた。この程度の単語しか知らないの、動作を交

えながら何度か言ってるうちに、分かってくれたよう。夜に仏教

和英辞典で「天上天下唯我独尊」を引いてコピーし、渡した。



家内によると、昨日の洗濯衣類には、遠慮してか靴下とか下着が出てなかった、と言うので、遠慮せずに「socks trunk s your all clothes、all、all」と言ったら、靴下やパンツを1週間分くらいガサッと持ってきた。今日も家内は洗濯日であった。

彼も睡眠不足でしょうが、こちらも睡眠不足。受け入れ前からいろいろ準備の段取りで遅くなっていた上、毎日遅いので、立っててもまぶたが下がってくるほど。今夜は、わがクラブの役員が夕食会を箕面の「うえの」で開いてくれるので、家内に「先に風呂に入るとき」と言ってH

HEPへ。長谷川会員と岡本会員が迎えに来てくれ、箕面の「うえの」へ。会員の紹介



をしたあと、乾杯。西野会長から彼へのプレゼント、バーナーの交換等にぎやかに交流。武田会員が通訳役としてお孫さんを同行、難しいことは彼女に通訳してもらった。うちの会員もいろんな英語で彼と会話を楽しんだ。榎原会員はさすが海外での仕事経験者、結構スラスラと英語でしゃべっていた。以上の会員の他、山中

、西口、二井、上田の各会員に出席いただいていた。通訳役の彼女の話では、「お



坊さんって、いつも静かに瞑想しているものと思っていたが、全然違っ

ていた」と言っていたそうである。そんなお寺はごく一部の修行寺、私はあれもこれもやっているの、じっとしている暇がない。SCUTOさんがパソコンを休む



間もなく打っているの、「you busy、me too」というと、彼もそうだと言う。忙しいも

ん同士だった。

9:30頃帰宅、すぐさまパソコンに向かう。11:00頃、家内は先に休ませてもらった。私の寝たのは、彼が2階に上がるのを見届けて、やはり1:00を回った。



4月9日

(木)

7:30朝食。昨朝と同様だが、昨日の会話から、彼はバケット(長いフランスパン)が好きということが判ったので、家内が昨日のうちに買ってきたバケットを出す



と、大変喜んで、半熟卵の黄身を付けて美味しいように食べて、我々にもこうして食べるんだ、

と勧めてくれた。「フランスでは育ち盛りの子供たちには黄身を付けて食べさせる。だが、バケットも卵も太るから、大人はもっと薄いカチカチのパンを食べ、バケットは週一回、卵は一日1個。」と説明してくれた。朝食後、wash clothes?と言ったが、今日はないとのことだった。

夕方。今日はチームの例会出席の日なので、8:00 に箕面観光ホテルに迎えに行く。昨日、京都で女性の着物、都踊りを見たが、男性の着物は見てない、と言っていたので、わざわざ着物に着替えて迎えに行った（衣ではなく普通の男性着物姿）。私のサービス精神旺盛なところですね。衣は、最初の日、「my work uniform」と言っておいたので、本来の着物姿に、「Oh!」と喜んでくれた。帰宅して早速、写真会となった。この日は、私も我慢できず、彼より先に風呂に入る。が、やはり見届けまで気になって、彼の showerを確認して、寝るのは、やっぱり 1:00 になった。

4月10日(金)

朝、洗濯物を持ってきたので、今日は洗濯日に。

この日はフランス人に会う予定にしていた。My member 信徒さんの娘さんでフランス人と結婚して一緒に住んでいる人がいる。ご両親を無くしているので、若いけれどもきちんとお仏壇を守っている。そのお家にお参りに行って会う約束していたのだが、急にそのフランス人に朝の英会話の仕事が入って、会えず。若い奥さんは当然フランス語をしゃべるので、彼女といろいろしゃべってもらった。彼の質問の中には、「仏壇の中の位牌は両親だが、ご先祖はこの中にいるのか?」というのがあって、彼女は「みんなこの中にいる」と答えてくれた。そしていつものように HHEP へ。

夕方 6:30、HHEP で明日の「広島デー」の打合せが終わるのを待って、7:00 に帰宅。すぐにワイシャツを脱がして、荷物づくりに間に合うように家内がすぐ洗濯、2 時間ほどで乾燥、アイロン。夕食は何

にしようかと家内と相談して、「すき焼き」にした。「SUKIYAKI party in JAPAN, Celebration happy with many friends」「tonight is last night, farewell SUKIYAKI party」という説明をした。初めてだそうで、早速、写真と



メモ。「江戸時代までは日本人は beef を食べなかった。明治に西洋人が持ち込ん

で、日本人は牛肉を食べるのを見て very surprise。なぜなら、牛は agriculture にとってとても重要、崇



拝の対象だったから。西洋人が食べるのを見て日本人も食べ始めた」と説明したつもりだが、分かったかどうか。麩を入れたが、麩も初めて。「材料は?、どうして調理する?」と質問が。とても珍しいものだったよう。いろいろ一生懸命説明していると、せっかくの肉が焦げたり、豆腐が焦げたり。忙しい SUKIYAKI party だったが、とにかく、彼との名残を惜しんだ。

夕食終わって、おみやげ交換になった。こちらからのおみやげは、家内から、テーブルセンターにもなる風呂敷、息子さんに兜の絵を書いたタペストリー、奥さんのソフィーさんに手鏡など、私から英文解説の入った日本のカレンダーと本、彼と一緒に檀家さんでおつとめした「OTSUTOME」、浄土宗カレンダー（標語が日本語と英文とで載っている）など、見せるだけにして、「送ってあげる」と提案。彼らは、あちこちでおみやげをいただき

て baggage がどんどん重くなるのは分かっている、自宅の住所を聞いて送ってあげることにした。彼は「really!」と、とても喜んでいて。他にも送るものを持ってきて、というところ、2、3の品物を持ってきた。ソフィーさんがいろんなお茶が好きということなので、玄米茶、そば茶、甘茶なども入れて送ることになっている。

丁度、今夜は満月、彼は写真が好きで、moonlight で写真を撮ると言って、夜の境内に出て、月明かりに浮かぶ山門、本堂、桜をカメラに納めていた。明日は、7:00 朝食 7:30 出立と指示。さすがに今夜は11時でパソコンを終わった。

4月11日(土)

彼はバケットと半熟卵の朝食。我々はいつも通り、海苔、みそ汁、お茶漬けの朝食。それにヨーグルトとヤクルト。7:30に出て新大阪へ。すいていたので、8:00過ぎに一番乗りで到着。携帯の充電をしたいということで、案内所で聞いて中央入口の所の装置で充電。フランスチームと一緒に写真を撮って「see later farewell party, Bon Voyage!、Good Journey!」と言って別れた。4月23日の歓送会でいよいよお別れとなる。夕方 5:00、次の family 高地さん(大阪淀川 RC、自宅西宮市)まで彼のスーツケースを届けて引き継いだ。

彼は、宗教や歴史にも関心が深く、歴史的なこと、仏教と神道、monk(僧侶)のこと、いろんな質問があった。その幾つかを挙げると①Buddhist は shrine に参るのか、Why?。フランスでは、catholic と protestant はまったく交わらない、日本ではなぜだ?。②ローマカソリックはローマに巡礼、Muslim はメッカに巡礼

する、Japanese Buddhist はどこに巡礼するのか?。③どうして monk になったのだ?、お寺に生まれたから、と答えると、お寺に生まれたら、son も daughter も monk になるのか?。私でも monk になれるのか?など。

私の英語力では答えられない質問も多かったが、一応、知ってる単語を駆使して答えた。①Japanese pray the nature, sun, mountain, river, big rock, big tree, waterfall, and thank the nature's power. the nature's power is protect us. 日本人は、自然をあがめている。太陽、山、川、巨木、滝、巨石、自然の力、これを崇拝するのが日本人。そのシンボルが神社。みんなお参りする。お寺の台所にも神棚 mini shrine がある。(彼は神棚を写真に納めた)。ヨーロッパ人には理解が難しいだろうが、日本人の基礎的な信仰だ。ただ、神道と仏教の組織 organization は別個である。②日本の仏教は宗祖 the founder による sect religion である。sect 毎のお参りする本山 (big temple) はある。88カ所、33カ所の巡礼はとても私の英語では表現できなかった。③私はお寺に生まれたから僧になったが、今の若い者はなりたがらない。temple には no holiday 休みがないから。SCUTO さんでも本山で数年トレーニングすれば僧になれる。等答えたつもりだが、どの程度通じたか?。

どなたか私の broken 度を判定していただいて、ちゃんとした英語表現をご指導いただけませんか?。今後のために。今回、中学・高校での教育がとても重要と改めて感じた。そのときの単語で大体いけそうであったからである。が、なかなか思い出せず、随分、電子辞書のお世

話になった。少し慣れてきたところで、
終わりになった。

何はともあれ、こうして host family
は無事終了。いい機会を与えていただき
て、有難かったです。皆さんのお蔭様で
いい「ご縁」をいただき、いい経験になり
ました。感謝！。 Thanks for all！。
残念だったのは、ずっとウィークデイだ
ったので息子と娘が仕事で忙しいため一
緒に過ごせなかったこと。

この原稿をまとめるのに2日間、寝るの
は午前2:00になった。

以上、私と家内の2人3脚の賜物、奮
闘記でした。

written by HATA 2009.4.13

なお、Emmanuel の原義は、「神と共に」
だそうです。

F I N



GSE Team 受け入れを振り返って

大阪堂島ロータリークラブ 城ヶ辻 保

ロータリー活動のなかでG S E Team との関わりは私たち大阪堂島R Cとその家族にとってたくさんの思い出と友情を残してくれています。

2007年春、さくら満開の姫路城に大感激のトルコアンカラ Team のペンギス嬢は帰りの新快速でGSE 過密日程の疲れから熟睡されてたのがとても印象的でした。

2009年 フランスパリからやってきたブノア君は好青年でホスト家庭の子供達とその後長くメールのやり取りで日本との関係を続けてくれていました。

2010年 U S Aテキサス Team 受け入れホストクラブとして多くのクラブの協力を得て十分な歓迎とおもてなしを提供して頂きました。クリス団長、ミシェル、J C シュメール、ブライアン、キャスリンラモス、K C マカティ みんなの笑顔がすぐに思い出せます。

その受け入れた多くの方々から、東北大震災の際に安否メールを頂いたことにG S Eを通して世界の友とその後もつながっていることにG S Eの意義を思い起こさせてくれます。

その後、2012年にはスリランカ Team を受け入れ、会員家族とサントリー桂工場を見学し、2013年にはドイツハンブルグ Team を受け入れましたがこれが最後のG S Eとなりました。

諸般の事情によりG S Eは50年の歴史に幕を閉じることになったようですが、広範な世界でG S Eを体験した人達、その受け入れに携わったロータリアンと家族が揃って幸せな感動を共有できたことを誇りに思います。将来、形を変えてでも「Group Study Exchange」の精神を継承して頂ける「新G S E」の復活を願っております。

ロータリーGSEに参加して

大阪 SGG クラブ会長

芳賀 直美

善意通訳団体の大阪 SGG クラブが、ロータリーGSE のプログラムに海外から研修に派遣されたグループの同行通訳という形で加わったのは、2001 年からでした。それから 2013 年までの、合わせて 9 チームの同行通訳で、クラブのメイン活動である外国人観光客のガイドとは一味違った経験をさせていただきました。観光ガイドは、自分達が持っている情報や知識を自分達の言葉で相手に伝えるのですが、同行通訳は、その分野についての専門的な知識が必要なことも多く、質問や答えを正確に伝えなければなりません。その意味では、観光ガイドとは違った異文化間コミュニケーションが体験できました。

同行通訳した会員の活動報告は全て会報に載せていますが、今改めて読むと、企業訪問では、銘木市場、仏具店、堺の打ち刃物、能面製作工房、針灸整骨院、文化研修では、能楽堂、天満宮、香道体験など、欧米系が多かった海外チームのメンバーには身近なものではなかったでしょうが、それだけに熱心に研修した様子が窺われます。

研修以外で記憶に残っているのは、さよならパーティで海外からの皆さんがホームステイで体験したことを発表された時でした。例えば、ホストファミリーとプロ野球を観戦してタイガースファンの熱狂的な応援に驚いたこと、ホームステイ先でウォッシュレットの使い方に戸惑ったことなどですが、このような「カルチャー・ショック」型の体験も、企業研修で学ぶだけではない、日本の社会生活や家庭生活の一端に触れたわけで、GSE の成果としては小さくなかったと思います。また、タイミングも殆どの場合が桜の季節だったので、これも日本の花見という異文化体験に相応しかったでしょう。

改めて、歴代の GSE 委員会や受入に関わられた夫々の RC の皆さんのご努力に敬意を表させていただきます。

G.S.E. ・カナダ アルバータ州訪問

1974－1975 年度
536 地区（カナダ西部）派遣
中村 雅美

今から丁度 40 年前の 1974 年 5 月 1 日から 40 日間、第 536 地区のカナダアルバータ州を、第 366 地区のロータリアン世戸一夫団長の引率で訪問した。

私は その後 東京に転勤したので、この時の体験の恩返しを大阪地区では殆ど出来なかったが、この時の経験はその後のサラリーマン生活に於ける海外企業とのお付き合いや、定年後のボランティア活動（留学生との交流）の原点になった。

この訪問の最初に、アルバータ州の商都 カルガリーで 全員にカーボーイハット とジーンズがプレゼントされた。これ等はその後の親善活動で、大いに活躍した。

多くのホストファミリーの家庭に宿泊したが、歓迎する方は一晩の歓待でも受ける方は毎晩、目が覚めてから寝るまで緊張の連続、特に英語が堪能でない私には、厳しかった。

ホストファミリーは、シニアの家庭が多かったが、稀には同世代の時もあった。同世代の誼か、なかには、馬に乗せてくれたり、「日本では銃規制が厳しいと聞いている」と言って、裏庭で「実弾射撃」を、させてくれたりもした。

洗濯の時間が殆ど取れなかったので、ホストファミリーのお世話になることが多かったが、ある時「あなたの下着の木綿の品質は素晴らしい、日本の生活レベルの高さが判る」と言われた時には 驚いたと同時に「普段着の外交 ？」、日常生活を共にすることの意義を、実感した。

Fort McMurry のオイルサンド工場の見学も忘れられない。最近 オイルサンドと同類の シェールガス、オイルが良く話題になるが、「40 年経ってよいよ実用化か」という感慨を持っている。

一般社会人の国際交流という 有意義でも難しいこの課題に取り組んだ G.S.E. を高く評価すると共に、このプロジェクトに参加出来たことを、大変嬉しく、又 誇りに思っている。



歓迎の大雪



日本に来たメンバーの家に
はためく鯉のぼり



若いホストファミリー



夕日のガンマン



オイルサンドを掘削する巨大な
ダンプ



フェアウェルパーティ

GSE 振り返りエッセイ

1981－1982 年度
983 地区（オーストラリア・タスマニア）派遣
藤田佳久

1. 私の GSE 体験

私は 30 年以上前、1982 年 2～3 月、5 週間にわたり中島治一郎団長（泉大津 RC）はじめ 6 名で構成される GSE チームの 1 団員としてオーストラリア・タスマニア（983 地区）に派遣していただきました。

（他のチームメンバー：関岡秀夫氏、浜田泰次氏、橋本公秀氏、久保伸夫氏）

私にとりましては初めての海外体験でしたのですべてが新鮮、驚きで、当時の私の報告書にも、街並み、家庭、職業観などあらゆる面で日本との大きな違いに感心させられたことが記されております。但し今の私からしますとそれらの違いは当然というべき内容であります、若い間にそれらの違いを肌で実感できましたことはその後の私の人生に有利な影響を与えたものと認識しております。

また観光旅行ではできない現地での人的交流が GSE プログラムの素晴らしい特徴であります、実際私自身各種職場・施設訪問、RC 例会での交流だけでなくホームステイで現地のロータリアンの方々と交流できましたことは大変貴重な体験でありました。

なお当時訪問に際しまして、現地でよい面を学ぼうと思いタスマニアの「人々の生活と心の豊かさとゆとり」に感激しそれを表現したように記憶しておりますが、現地では日本の良い面ももっと PR すべきであったかもしれません。

2. GSE 体験の私のキャリア形成に与えた影響

私は昨年 3 月まで大阪市役所に勤務しておりましたが、GSE で海外に派遣いただきましたことは私のキャリア形成に少なからぬ影響を及ぼしたと言えましょう。

すなわち 1983 年 8 月から 3 年間のシカゴ事務所勤務、大阪の中小企業の海外ビジネス支援業務、1990 年の花と緑の博覧会での海外賓客の接遇、大阪市の姉妹都市交流推進業務、海外プロモーション業務、など大阪市役所の中では国際畑を歩んでまいりました。

これらの国際関連の業務を遂行する上で GSE 体験は自信を与えてくれましたし、またこうした国際交流は仕事だけでなく家庭を含めたプライベート生活におきましても豊かな刺激と潤いをもたらしてくれたことに満足しております。

3. GSE プログラムの意義

近年製造拠点の海外移転、少子化などによる国内市場の縮小を背景に海外展開が叫ばれ、「グローバル人材の育成」というのが関西経済の活性化に向けた重要なテーマとなってきております。これは最近の若者が留学など海外への関心が薄まってきており、かつ経済のグローバル化が一層進む中、成長戦略を描くうえでどうしても海外へのビジネス展開が必要となってきているからで、そうした観点から GSE プログラムはグローバル人材の育成に大きく貢献してきたと言えます。

一方、近年中東や西アジア地域で戦火が拡大するだけでなく韓国や中国といった日本の隣国との関係が不穏な状況となってきております。こうした状況でこそ地域と地域との、また人と人との国際交流・友好親善が重要でありますので、世界全体で実施されてきました GSE プログラムが果たしてきた役割は大いに称賛に値すると思っております。まさに私が GSE でタスマニアを訪問した年の Rotary International のテーマ” World Understanding and Peace Through Rotary” の実現に貢献してきたと言えます。

4. 最後に

最後に改めて、この素晴らしい GSE プログラムを推進されてきましたロータリークラブはじめ関係者の方々に心から感謝と敬意を表したいと思います。

また、GSE プログラムは残念ながら終了することですが、これまで GSE は先進国地域との交流が中心でありましたので、グローバル人材の育成や世界平和への貢献という観点からは、今後新しいプログラムが企画されますなら発展途上国地域などとの交流が重要になってくるのではないかと考える次第であります。

私と GSE

1990－1991 年度 7690 地区（米国ノースカロライナ州）派遣 団長 松岡 茂雄

私と GSE の関りは、所属していた大阪鶴見ロータリークラブが 1989 年 2 月に IGF（現 IM）6 組のホストクラブを務めたことに始まります。この IGF はテーマを「留学生問題を考える」とし、関西国際学友会日本語学校校長浦野先生（大阪北 RC 所属）の「留学生をめぐる現場から」という基調講演に続き、300 人のロータリアンと 35 人の留学生のバズセッションを行ったものです。

この催しにより、大阪鶴見 RC が国際交流に熱心であると判断され、第 3 代会長の内昭男氏が地区 GSE 委員（のち地区 GSE 委員長）に指名されました。その大内氏により私が 1990/1991 年度米国ノースカロライナ州グリーンズボロ周辺 RI 第 7690 地区派遣のチームリーダーに推挙されたのです。

当時、日本は国力絶好調、アメリカとの通商交渉が物議を醸すなか、1990 年第一次湾岸戦争が勃発しました。日本は憲法第 9 条を盾にして自衛隊を派遣せず、130 億ドルもの戦費だけを負担しましたが国際的尊敬は得られませんでした。第 7690 地区ではそんな国との研究グループ交換は中止しようとの声もあったようです。しかし、現在のような電子メールもなく、ファクスによる通信で、なにはともあれ交換は実現、1991 年 2 月に NY 経由で現地に到着しました。

相手地区の GSE 委員長は退役軍人で、彼からのファクスでは「湾岸戦争に対する日本の対応について質問のあることを覚悟せよ」との警告を受けていました。ノースカロライナでは空港も街も至る所に黄色いリボンが巻き付けられ、湾岸に派遣された兵士の無事な帰還を祈っていました。

ホスト家庭を一堂に集めた歓迎会でガバナーは GSE の意義を「市民の交換による相互理解」と話され、この活動が戦前にあれば日米は戦うことがなかったのではないかと演説されました。私たちはチームリーダーとしての私のスピーチの最後に一斉に「黄色いリボン」を胸に付け「最後に一言、アメリカ兵士の無事な帰還を祈ります。」と付け加えました。あるホスト家庭の話では、このパフォーマンスで胸のつかえがとれ、この交換を成功させようと思ったそうです。

現在のようにパワーポイントがあるわけではなく、チームのプレゼンテーションは自己

紹介と歌に頼りました。幸い団員の西村恵一くんがヴァイオリニストで、彼の伴奏で歌を歌いました。好評だったのはミュージカル『王様と私』の挿入歌「あなたと知り合いになれて嬉しい」(Getting to know you) でした。

私が GSE で学んだこと、それは「風俗、習慣は異なっても人間は同じ、善意があれば理解し、わかり合える」ということです。そして人間としての理解を深めるのにホームステイが大きな威力を発揮します。

ノースカロライナでは一つの家庭に一週間ずつ滞在し、教会、コミュニティ行事へ参加、職業研修などを通じて一両日代わりの滞在では得られない密度のある体験をしました。

帰国してからは、このときの体験をもとに、当地区でも一週間一ホスト家庭滞在、職業研修のスケジュール調整などの原則を提案して受け入れられました。

当初は大内委員のヘルプ、後に地区 GSE 委員および委員長として私が心がけたことは相手団員の希望を予め聞き取り、可能な限り効果的な研修をして上げることでした。また、各週の担当がバラバラに研修計画を立案すると、同じ場所に何回も案内することが起きるので地区委員会による調整をしました。

派遣についても世界的にも珍しい「テーマ」を持った団員募集をしました。スウェーデン第 2400 地区への「社会福祉」関係者、ニュージーランド南島第 9980 地区への「社会改革・行政改革」関係者チームの結成がその例です。スウェーデン派遣チームの帰国後は大阪市助役を迎えての報告会を開催、ノンステップバスの導入、交通要所へのエレベーター設置等、行政の対応に影響を与えたことも懐かしい思い出です。

2004 年にロータリーの世界大会が大阪で開催された際には、梅田新道のアサヒスーパードライ梅田で世界の GSE 関係者に呼びかけ、加藤委員長の GSE FESTA を開き、交流を深めました。この時の交流がきっかけで後にフランスとの GSE が実現しました。

個人的には 1997/1998 年アメリカアーカンソー、1998/1999 カナダオンタリオ州、1999/2000 年英国イングランド北東部、2000/2001 年オランダ中東部、2001/2002 年米国ウイスコンシン州、2002/2003 年英国イングランドマンチェスター周辺、2004/2006 年南スウェーデン、2006/2007 年トルコ各チームのホームステイを引き受け、そのうちカナダ、オランダ、米国ウイスコンシンチームはチームリーダーを受け入れています。

ロータリーを退会した今も彼らとは相互訪問、メール交換、文通などを通じて交流があり、人生の大切な一部を占めています。

GSE は国籍を異にする市民がお互いの社会や文化に民間の交流を通じて触れ合い、相

互理解を深める素晴らしいプログラムです。姿は変わっても、その精神が今後も受け継がれ、世界平和に貢献することを希望します。

GSE 派遣を振り返って

1999－2000 年度
1030 地区（イングランド北東部）派遣
播本 裕典

寄稿文を執筆を、とのお話をいただいて、自宅の押入れの奥から、15 年前の GSE 派遣当時の資料や写真などが入ったダンボール箱を引っ張り出してきた。想像していた通り、久しぶりに箱を開けると、懐かしい品々に圧倒され、時間が経つのも忘れて写真や資料に見入ってしまった。

自分自身が記述した帰国後の報告書をほぼ 15 年振りに読み返してみると、結構労作で、自分が書いた文章ながら、文中の指摘や主張に感銘や刺激を受け、うんうん、そうそうと、頷きながら読みふけてしまった。（我ながら馬鹿だと思います。）

さて、GSE チームの一員に選んでいただき、イングランド北部のニューカッスル市を中心都市とする、イギリス第 1030 地区に 1 ヶ月間余りの派遣の機会をいただいたことは、自分の人生におけるかけがえのない貴重な宝物となっている。

自分は思いや念の力が強いのかも知れないが、GSE プログラムのお話をお聞きした頃、こころ密かに海外で学んだり、働いたりしてみたいと、当時の自分にとっては非現実と思える願望を抱いていた。そうした時に、GSE プログラムへの応募の機会を得、あれよあれよと言っている間に合格し、4 ヶ月後には派遣メンバーの一員としてロンドン行き の飛行機に搭乗し、一連のプログラムに突入していくことになったのである。

派遣先の第 1030 地区では、各クラブへの訪問や職業研修、各種施設の視察や関係の方々との意見交換の場など、様々な機会を通じて、自分の専門分野をはじめ多くの事柄について学ばせていただいた。加えて 3 日ごとに受入家庭を移動しながらロータリアン宅に 1 ヶ月もの期間ホームステイさせていただくことで、英国の生活に直接触れられたことも、GSE プログラム以外ではまず得られない稀有な経験であった。

自分は、この派遣の経験も生かして、その後 2001 年から 3 年間、大阪府オースト

ラリア事務所の所長としてシドニーに3年間駐在することになるのだが、海外の人たちの「生」の生活を伺い知るといえる点から言えば、シドニーでの3年間よりも1030地区ニューカッスル周辺地域での1ヶ月間の方が、はるかに多くのものを得させていただいた。GSEプログラムが提供して来た素晴らしい点の一つに間違いない。

また、派遣チームの一員として、常にチームワークを意識しながら団体行動することでも多くのことを学ばせてもらった。このことは、管理職になり業務や組織のマネジメントを日々意識しながら仕事をする今、その思いは一層強くなる。

ところで、この派遣を通じて自分の語学力の低さを容赦なく思い知らされたことも、皮肉やひがみではなく、本当にありがたい機会であった。もっと英語ができれば、訪問先のクラブの例会や職業研修の場で、あるいはホストファミリーとの歓談の時間に、もっと深みのある会話を交わすことができたであろうに、との悔しい思いが、自分のその後の英語学習を支えるモチベーションとなった。

派遣後、縁あってGSEアルムニ会の副会長を務めさせていただき、多くの派遣チームのサポートに携わらせていただいたことも、自分にとってとても光栄なことであった。さらには、後進の派遣チームの報告を通して世界各地の「今」や「生」の情報に触れる機会を得たこと、歴代のGSE委員会の方々や派遣チームメンバーと親しい関係を築かせてもらっていることについても、感謝の思いでいっぱいである。

英語で自分の好きな言葉が二つあって、
一つが “Where there is a will, there is a way.”
もう一つが、“He profits most who serves best.” である。

GSEプログラムを通していただいた「宝物」の経験を生かしながら、上の言葉を念頭に、自分の人生をより良く生き、社会の役に何かしら立てられる人間になれるよう、引き続き努力していきたい。

最後にこの機会をお借りして、GSEプログラムの機会をいただいたこと、またこのプログラムを通じて知り合った皆様からいただいたご厚情に改めて感謝申し上げます。



1030 地区での最初の訪問地アシントンにて



職業研修でノーザンバーランド県庁を訪問して



1030 地区から大阪への派遣チームを
道頓堀へ案内して



1030 地区から大阪への派遣チームとの
カラオケ懇親会

オランダでの経験をどう活かしているか

2000－2001 年度
1560 地区（オランダ）派遣
清水史恵（旧姓：米澤）

私は、病院の小児外科病棟で看護師として働いたのち、大学院修士課程に入学した際に、GSE の派遣メンバーとして、オランダに行かせていただきました。オランダにおいては、小児保健の場である地域の保健センターの見学、地域で働く助産師の方への同行、小学校で日本を紹介する授業の実施など、様々な経験をさせていただきました。

オランダから帰国後は、修士課程での学業と共に、修士課程 2 年生の時に誕生した子どもの育児でてんてこ舞いの日々でした。なんとか、修士課程を修了した後も、3 人の子育てで怒涛の日々が続きました。子育てに少し体力的にゆとりが見られたころより、病院の外来、地元の小中学校（医療的なケアを必要とする子どもをケアする看護師として）、大学で働く機会を頂きました。今現在は、地元の小中学校で看護師として勤務しながら、大学院の博士課程で、地元の小中学校における医療的ケアに関する研究をしています。これまで、地域で暮らす子どもたちをケアする仕事に一貫して関わってることができました。これからも、縁がある限り、関わっていきたいなあとと思っています。

私は、子育てをする中で、オランダで滞在させていただいたご家庭の様子を、折にふれて、思い出しています。滞在させて頂いた 2 家庭には、子どもが 3 人おられ、今現在の自分の家庭と重なります。そのご家庭では、子育てしながら、普通に、両親が働いておられ、それも、無理なく働かれていて、あたたかいご家庭のその当時の様子が、今になって、とても思い出されます。オランダでお世話になったご家庭を見習わないといけないなあと、日々、思います。私にとっては、GSE の職場研修もありがたかったですが、実際に、ご家庭に滞在させていただき、子育て、仕事、地域のコミュニティへの参加と、様々なことにご家族で協力して取り組まれている様子を実際に見させていただけたことが、今の自分にとってもプラスになっていると思います。

パリ・イルドフランス東地区（1770）とのグループ研究交換

2008－2009 年度

1770 地区（フランス）派遣

団長 箕面千里中央ロータリークラブ 野村 正勝

2008－2009 年度の 2660 地区ではフランス、パリ郊外のイルド・フランス東地区（1770）とグループ研究交換を実施した。ご承知のようにロータリアンでない若い職業を持つ 4 名の団員は山本茂雄（大阪府職員）、和田聡子（大阪学院大学準教授）、荘リサ（日本珈琲貿易）、福元妙子（田辺三菱製薬）の各氏（所属は当時のもの）で、ロータリアンの私を入れ 5 名のチームである。出発の 45 日前にはスケジュールと研修のプログラムが確定していなければならないのだが、この時は 2008 年のアメリカ発の金融危機があり、その影響もあって直前まで相手側からプログラムが届かず、随分やきもきしたのである。

2009 年 3 月 1 日に団員 5 名はシャルルドゴール空港に向け関空を出発した。帰国したのは 3 月 30 日の早朝であった。訪問先はエールフランス、プジョー・シトロエン、トヨタ・フランス、スネクマ（航空機エンジンメーカー）、フランス電力、フランス・ガス・スエズ、サン・ゴバン、ブーランジェ（家電量販店）、アンスティチュート・ド・ポール・ボキューズ、ベルナション、ベルトロー、パリ・オペラ座、リヨン・オペラ座、パリ第六大学病院などである。

すべての団員がそれぞれの専門の立場で「得難い経験をした」と述べている。

私は「フランス・パリ郊外への旅」と題して私の専門誌の随想欄に啓発された事項を書き記した（日本エネルギー学会 88 巻 6 号 2009）。

私の最終報告書は A4 版 21 頁（約 28000 字）に及び、ある元団長は「疲れて最後まで読めません」と話された。訪問先の写真は 8 Gb のメモリーチップを満杯にしている。各団員の最終報告書は私のパソコンにすべて収容され、今もその内容は新鮮で啓示的でさえある。このプログラムに参加できたことを今、天恵と感じている。

パリ・イルドフランス東地区との G S E : 女性団員の報告書から

今回の 2660 地区からの派遣メンバーの内 3 人は女性で夫々大学教官、商社員、医薬品会社の MR であった。彼女らはそれぞれ最終報告書を提出しているので、それに基

づき各人の経験を以下にまとめた。

和田聡子氏（仏語堪能）は産業経済論・経済政策論が専門でフランスの代表的企業の訪問をリクエストされた。荘リサ氏（英語堪能）は珈琲貿易の関連で食品に関わる店舗訪問をリクエストされ、福元妙子氏（独語堪能）は医薬品会社、病院、オペラ座訪問を希望された。2008－2009年度のGSEプログラムではアメリカ発のサブプライムローンに発する経済危機の影響をフランスも強く受け、当初の訪問希望の企業のいくつかは、我々がフランスに到着した時点でキャンセルされたのは残念であった。

2660地区ではGSE委員会が団長も含めて各団員の要望に応じて、個別の訪問を計画・実行しているが、パリ1770地区ではGSE委員会そのものが個人的色彩が強く委員長のRhodeさんとSenlis RCのBazilleさんがほぼ1ヶ月の活動をサポートしている（勿論追々わかることであるが地区の多くの方々がそれとなくサポートされていたのが最後には判明したが）感じで、最初の訪問地、コンピエーニュではこのお二人が今回のGSEのプログラムの目指すところを持続的発展（Sustainable Development）のコンセプトで縷々説明されたのである。それゆえに私たちの最初の訪問はヴィレ・サンポールの再生資源センターの見学であった。

和田氏は実際に訪問した企業として航空サービス企業、自動車メーカー、家電量販店のブーランジェ、大型機械エンジンメーカー、総合エネルギー企業、ガラス製造メーカー、フランス電力などを挙げ、そこでは企業効率の向上より環境、文化の保全を第一に挙げた企業経営・戦略による成長目標が打ち出されていたと総括されている。企業訪問のほかには行政関係施設・機関も訪問し、先に述べた再生資源センターのほかに、シャパンパン製造で有名なランスにある農業振興センター、フランスのバイオ基地として有名なエソンヌ県商工会議所の訪問、ジェノポールバイオ集積施設を見学、一方でセッションの新しい街づくりの取り組みと近況を皆で聞いた。

山本団員のリヨンでの国際会議出席に合わせ全員がTGVでリヨンを訪ね、この時にポールボキューズの料理学校を訪問、昼食は全員でフルコースを味わうことができた。女性3名の団員は午前中にこの料理学校とその設備を見学している。またリヨンのオペラ座も女性団員3名で視察している。

荘氏はリヨンにあるショコラティエ、ベルナション（ほかの2名も参加）、それからノワイヨンのショコラティエ、ベルトローを訪ね工房と店舗、それから前者の店でのホットココアとフォアグラのサラダは絶品と感嘆している。スーパーや小売店も訪ねフランス食材についての知見収集に努めていた。

福元氏は医薬品のMR（医療情報担当者）としてサノフィ・アベンティス訪問を強く

希望されていたが、初めに記載したように経済危機の影響もあり企業側の都合で訪問できなかったのは残念であった。自身の係る医薬品に関してはパリ第六大学の病院に医師を訪ね、情報交換できたのは幸いであった。福元氏はオペラの演出にも興味があるということでオペラ座を皆で訪問した。オペラ座ガルニエでは劇場の屋上からのパリの雄大な眺めを見て団員すべてが感動した。支配人の詳細な説明に福元氏は熱心に耳を傾けていた。オペラ座バステューでは案内者は熱心で饒舌であった（日本語の通訳があればなと思った）。加えてリヨンのオペラ座訪問は意義深いものだったと思われる。

今回のG S Eはホームステイが9件、4件のホテルステイであったが、ホームステイのいいところはホテル滞在では決して味わえないフランス人の日常の生活の様子を垣間見ることができる点で、荘氏はフランス人に対するイメージが大きく変わったと述べている。主婦は多く自立していて素敵な多くの女性に感銘を受けたとも述べている。総じて女性団員は比較的若いファミリーに引き取られたので、英語でのコミュニケーションがスムーズに行われたようである。一方、山本氏は団長の私と一緒にくくられることが多く、比較的年配のファミリーに引き取られたので英語でのコミュニケーションがスムーズにいかなかったきらいがある。それでもロータリーの友情を私はいたるところに感じた。

団員たちはロータリークラブの例会で出会った人々やファミリーの方々との素敵な無数の出会いがあったこと、職業観、結婚観、宗教、地震、住宅、茶道や書道、陶芸、神社仏閣、天皇、漢字、漫画やアニメ、学校の制度、飲酒やたばこなど多くを語り合っ
てフランスの新たな面を発見したこと、短いながら親密な交流の場を持つことができ、貴重な体験をしたと述べている。彼らのこの言葉の中に将にG S Eの神髄が垣間見えるのである。

フランス（1770地区）派遣報告

2008－2009 年度
1770 地区（フランス）派遣
山本 茂雄

当時、私は大阪府庁でバイオ産業の振興を担当しておりました。バイオ産業とは、生物の生命機能を活用した技術を基に社会に役に立つ実用化を行うもので、農業、医薬品、食品、エネルギーに至るまで、その応用範囲は広く、生活の隅々に利用されている身近な産業ともいえます。大阪には古くから、武田、田辺三菱といった日本を代表する製薬企業が集積しています。一方で、この薬を生み出す研究成果や技術を供給する大学、研究機関も大阪大学をはじめとした、日本有数の学術機関が揃っています。医療機器では、ものづくりの町、東大阪があります。こうした「地の利」を活かして、「学」から生まれる研究成果を企業のニーズと結び付け、地域経済を発展させようと、このバイオ産業の振興に力を入れているところです。ただ「地の利」だけでは、発展は限定的です。より世界規模で、長期的に発展するには、大阪の技術や製品を世界に送り出し、同時に世界からも大阪に企業、情報、そしてマネーが流入するような仕掛けが必要です。当時私はその仕掛けづくりのための国際連携業務を担当しており、今後この業務を進めていくうえで、「何か貴重な機会が得られるのではないか」という思いで参加させていただきました。

実際、この派遣研修では、製薬企業、バイオベンチャー、大学などを訪問し、社会制度、商習慣、個人的な価値観の違いはありながらも、バイオ先進国から多くのことを学ぶことができました。集中的にこうした議論の場数を踏むことで、海外の方々との、間合いの取り方とでも申しましょうか、自己をアピールしながらも、時には激しく議論を戦わせ、お互いの価値観と違いを尊重することで、結果的に信頼関係の土台が形成されるということも実感できました。

このような経験を経て、GSE 派遣の2年後には、ドイツ最大級のバイオ先進都市バイエルン州ミュンヘンとバイオ産業分野での包括的な連携協定を締結することもできました。現在でも、大阪、バイエルン州両地域の企業や研究機関が国内外のカンファレンスなどの場に集い、ビジネス交流を深め、コラボレーションによる両地域の発展を目指しております。



ドイツ・バイエルン州・バイオクラスター「BIO M」のCEO(左端)はじめ関係者と(ミュンヘンのバイオカンファレンス:「Bio Europe」にて) (本人:右から2番目)

最後になりましたが、推薦いただいた大阪イブニングロータリークラブの皆様、ロータリー財団の関係者の皆様、そして1か月間の輝ける経験をともにしたメンバーの皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

テキサン会

2009－2010 年度
5870 地区（米国テキサス州）派遣
団長 大阪鶴見ロータリークラブ 佐藤 俊一



これを読んでおられる皆様は G S E プログラムで各国に派遣され、それぞれの想いと懐旧を持っておられる方々が多数とおもいます。同期のチームは大げさに言えば、同じ「釜の飯」を共にした戦友のごとき共通の絆で結ばれているとおもいます。

その貴重な体験を持ちかえって今後どう個人としてまたアルミニ会として生かしていくかが課題です。

我々のチームも帰国後もその気持ちを続けていくために年に 1 ～ 2 回会合を持っています。

「テキサン会」という名はニューヨークの住民をニューヨーカーと呼ぶようにテキサス人を「テキサン」というところから名付けました。

「テキサン会」は団長以下 5 人のメンバーに加え、来日テキサスチームの一人ブライアンも加わっています。彼は来日の折のホストファミリーの女性とフォールインラブとなり結婚し現在東大阪の彼女の動物病院に住んでいます。

さらにテキサスから帰国後に品川明日香が結婚し、倉橋性に、大本尚美が引き続き福岡性になりました。テキサン会にはそれぞれの旦那も出席してくれています。なお男性は松永、吉田、端山と既婚で変更ありません。

3 年前に私のテキサスでのホームステイ先のご夫婦が来日し、皆で歓迎会をしました。その写真を添付でお見せします。

このように「テキサン会」の集まりは全員が集まる日程を調整していつも皆出席で居酒屋で気軽に開催しています。

ところで、アルミニ会の将来を考えると、G S E という名称がなくなるので組織的にも先細りの心配もあります。そうならないためには私が考えるにまず、同期のG S E チームを団長を中心にまとまり、さらに年度をまたぐ交流が望ましいのでフェイスブックをたちあげ、お互い顔見知りになること、さらにはP S C と合流し、地区財団学友として大きく発展していくことが期待されます。今、日本全国での財団学友の組織化も進んでおり、この地区からも協力し、ロータリー財団目標に少しでも貢献できればいいなとおもっています。

及ばずながら私個人としても残されたロータリーライフをこれに注ぎたいとの気持ちもあり、皆様のご協力をお願いします。

最後の GSE 派遣を振り返って

2012－2013 年度
1890 地区（ドイツ北ドイツ）派遣
伊藤 耕志

ロータリー最後の GSE で 1890 地区（北ドイツ）へ派遣されてから早二年が過ぎましたが、今もあのドイツでの経験は鮮明に思い出され、また「GSE は本当にすごいプログラムだったんだ」という実感が強くなっています。

吉崎団長以下 4 名（佐賀さん、田野実さん、墨さん、伊藤）が派遣された 1890 地区にはハンブルク市、シュレスビヒ-ホルシュタイン州、ニーダーザクセン州の一部に 71 クラブがあります。

ハンブルク市では航空機メーカーのエアバス社の見学、シュレスビヒ・ホルシュタイン州の北東部に位置するフェーア島やアムルム島では伝統的な東フリースランドの踊りをご披露いただき、世界遺産の街でハンザ同盟の都市のリューベック訪問、バルト海に面した港町カッペルン、100 年前に建設された 45m の高さの鉄道橋とキール運河を横切る吊り船があるレンツブルク、平原の中のボーデスホルムの訪問など、テレビや本ではなかなか知れない北ドイツの文化、歴史、産業、生活について、私たちが学べるような研修プログラムであったように感じています。（現地のロータリアンは「ドイツ人よりもドイツの歴史や文化について詳しくなったね」とおっしゃっていました。）



東フリースランの民族衣装（写真左）、
レンツブルクの吊り船（写真上）

職業研修では私の業務に関係する環境分野について多くを教えていただきました。派遣中は少しでも多くの情報を日本に持ち帰ることで必死でしたが、行政の担当者や自然保護担当の団体の方との面会で、遠い極東からやって来た日本人に丁寧に接していただいた感謝の念が派遣当時よりも大きくなったように感じています。



北ドイツの風力発電所群

日本と海外との関係や国際社会での日本の役割について、そして日常生活の中で自分が社会に対して果たす役割についての意識が強くなり、この感覚は年齢を重ねるにつれ強くなっていくと思っています。

そして、国境を越えた友人、日本でもロータリーを通じて知り合えた友人が出来、GSE が自分の人生の財産を与えてくれました。

かけがえのない貴重な機会と経験を与えてくださった 2660 地区及び 1890 地区のロータリアンの皆さまをはじめ、関係者の皆さまへお礼申し上げます。

ありがとうございました。

G S E フェスタ（2004年5月23日）

2004年5月23日に大阪で開催された国際ロータリー世界大会に合わせ、GSE関係者の集いの「GSE フェスタ」を開催しました。

世界大会当日は、2660 地区 GSE 委員、アルムニ会会員がロータリアンにフェスタへの参加を呼びかけた結果、会場は超満員となり、GSE フェスタは盛況のうちに終わりました。



国際ロータリー世界大会会場（大阪ドーム）



GSE フェスタ参加の勧誘



写真左から、松岡氏
(1990-1991 年度 769 地区
(米国ノースカロライナ州)
派遣団長)、ドミニク氏(フ
ランス人ロータリアン)、エ
リック・メーザー氏
(2001-2002 年度 6270 地
区(米国ウイスコンシン州)
チーム団長)

キャシー・スミス氏
(1998-1999 年度 7080 地
区(カナダオンタリオ州)チ
ーム団長)



通訳の芳賀氏とメーザー氏



岸氏（1995-1996 年度
4430 地区(ブラジル)派遣
団員のソプラノ歌唱)



ダンスパーティ



写真左から、土佐氏
(2001-2002 年度 6270 地
区(米国ウィスコンシン州)
派遣団員、メーザー氏、
鹿島氏(1998-1999 年度
7080 地区(カナダオンタリ
オ州)派遣団員

G S E 振 り 返 り の 会 (2 0 1 4 年 9 月 6 日)

2014 年 9 月 6 日、シティプラザ大阪（大阪市中心部）で開催された 2660 地区の GSE を振り返る「GSE 振り返りの会」を開催しました。GSE にご尽力されたロータリアン、ガバナー事務所職員、GSE 派遣団員、その他関係者計 58 人が参加し、GSE 派遣後の歩みや GSE 受け入れ時の思い出等についての報告がされ、その後の懇親会で旧交を温めました。



派遣団員一覧

(報告書等で確認できる範囲で、派遣当時の姓で記載していることをご了承ください。)

○1968-69 年度 第 522 地区 米国カリフォルニア州派遣

奥村 竜三 (大阪北 RC)、木本 武雄 (大阪北 RC 推薦)、里中 忠彦 (大阪 RC 推薦)、
佐山 和夫 (田辺 RC 推薦)

○1971-72 年度 第 945 地区 豪州西部派遣

西川 武四郎 (大阪 RC)、今村 信雄 (大阪北 RC 推薦)、寺田 耕三 (和歌山 RC 推薦)、
上家 富靖 (堺 RC 推薦)

○1974-75 年度 第 536 地区・カナダ西部派遣

世戸 一夫 (難波 RC)、中村 雅美 (高石 RC 推薦)、上嶋 一芳 (和歌山東 RC 推薦)、
保脇 和平 (和歌山 RC 推薦)、日高 正宏 (堺泉北 RC 推薦)、
木下 洋一 (大阪南 RC 推薦)

○1976-77 年度 第 122 地区 英国派遣

木田川 正毅 (堺 RC)、西川 仁志 (八尾東 RC 推薦)、林 秀晃 (和歌山東 RC 推薦)、
郡 俊路 (大阪西南 RC 推薦)、木田 宏之 (高槻 RC 推薦)、長尾 圭造 (堺 RC 推薦)

○1977-78 年度 第 671 地区 米国南部派遣

辻中 昭一 (大阪梅田 RC)、田中 智之 (和歌山 RC 推薦)、東 治美 (大阪北 RC 推薦)、
木本 毅 (田辺 RC 推薦)、小杉 正人 (寝屋川 RC 推薦)
新谷 聡 (堺泉北 RC 推薦)

○1979-80 年度 第 787 地区 米国東部派遣

中田 康仁 (大阪南 RC)、船戸 正久 (大阪淀川 RC 推薦)、片岡 清 (大阪東 RC 推薦)、
加畑 栄作 (和歌山西 RC 推薦)、藪本 憲靖 (摂津 RC 推薦)、
大野 恭介 (八尾東 RC 推薦)

○1981-82 年度 第 983 地区 豪州タスマニア派遣

中島 治一郎 (泉大津 RC)、藤田 佳久 (大阪北 RC 推薦)、
関岡 秀夫 (田辺東 RC 推薦)、浜田 泰次 (和歌山西 RC 推薦)、
橋本 公秀 (大阪北 RC 推薦)、久保 信夫 (守口 RC 推薦)

○1984-85 年度 第 110 地区 英国南部派遣

木川 稔 (摂津 RC)、森野 高晴 (八尾東 RC 推薦)、中栄 一誠 (摂津 RC 推薦)、
村上 栄一 (大阪北 RC 推薦)、松井 路易 (茨木 RC 推薦)、岡 哲也 (大阪北 RC 推薦)

○1986-87 年度 第 183 地区 西ドイツ派遣

木村 英一（大阪住吉 RC）、成田 章（大阪中央 RC 推薦）、
熊野 健司（大阪北 RC 推薦）、瓦林 孝彦（大阪住吉 RC 推薦）、
山本 博史（茨木 RC 推薦）、井野 千代徳（守口 RC 推薦）

○1988-89 年度 第 144 地区 デンマーク 派遣

檀村 泰信（摂津 RC）、中島 功一朗（大阪北 RC 推薦）、
柚原 功（大阪天満橋 RC 推薦）、吉村 幸久（箕面 RC 推薦）、
前川 泰之（寝屋川 RC 推薦）、上中 普雄（摂津 RC 推薦）

○1990-91 年度 第 7690 地区 米国ノースカロライナ州派遣

松岡 茂雄（大阪鶴見 RC）、松本 仁孝（大阪天満橋 RC 推薦）、
杉野 美礼（八尾東 RC 推薦）、西村 恵一（大阪東南 RC 推薦）、
谷川 徹治（大阪北 RC 推薦）、溝本 佳三（大阪天満橋 RC 推薦）

○1993-94 年度 第 5650 地区 米国ネブラスカ州、アイオワ州派遣

奥田 実（大阪東南 RC）、河池 隆（大阪東南 RC 推薦）、
中西 裕栄（大阪住吉 RC 推薦）、小田 ひかる（大阪梅田 RC 推薦）、
原田 奈緒美（八尾東 RC 推薦）

○1994-95 年度 第 2440 地区 スウェーデン南部派遣

中園 直樹（守口 RC）、諫山 保次郎（大阪堂島 RC 推薦）、
川本 典美（寝屋川 RC 推薦）、山田 有希生（大阪鶴見 RC 推薦）、
山本 泰（大阪天王寺 RC 推薦）

○1995-96 年度 第 4430 地区 ブラジルサンパウロ州派遣

大石 博雄（大阪北淀 RC）、川嶋 伸治（大阪中之島 RC 推薦）、
佐田 京子（八尾東 RC 推薦）、岸 美香（大阪南 RC 推薦）、
長谷川 剛（枚方くずは RC 推薦）

○1996-97 年度 第 9980 地区 ニュージーランドニ南島派遣

中島 守（大阪住吉 RC）、河村 浩一（大阪北 RC 推薦）、蜷川 善夫（大阪東 RC 推薦）、
菅井 朗夫（守口 RC 推薦）、山本 豊（枚方くずは RC 推薦）

○1997-98 年度 第 6150 地区 米国アーカンソー州派遣

野村 浩司（大阪そねざき RC）、庄村 祐三（門真 RC 推薦）、
金重 恵介（八尾東 RC 推薦）、佐藤 玲子（大阪 RC 推薦）、
阪上 光（八尾中央 RC 推薦）

○1998-99 年度 第 7080 地区 カナダオンタリオ州派遣

加藤 隆（八尾 RC）、中島 秀一（大阪北 RC 推薦）、樋口 純子（大阪中央 RC 推薦）、

- 余田 佳子（交野 RC 推薦）、鹿島 倫子（大阪西南 RC 推薦）
- 1999-2000 年度 第 1030 地区 イングランド北東部派遣
中村 健（箕面中央 RC）、播本 裕典（大阪鶴見 RC 推薦）、
佐久間 大輔（大阪南 RC 推薦）、庄司 富久代（東大阪東 RC 推薦）、
本多 智佳（大阪梅田 RC 推薦）
- 2000-01 年度 第 1560 地区 オランダ派遣
中 一皓（枚方くずは RC）、平井 拓己（大阪そねざき RC 推薦）、
岩上 高志（大阪城北 RC 推薦）、梅田 由香里（大阪住吉 RC 推薦）、
平島 理佳（守口 RC 推薦）、米澤 史恵（千里 RC 推薦）
- 2001-02 年度 第 6270 地区 米国ミルウォーキー州派遣
佐藤 良和（大阪大手前 RC）、土佐 邦之（大阪城北 RC 推薦）、
太田 由紀（大阪天王寺 RC 推薦）、玉井 達也（大阪中之島 RC 推薦）、
安西 智栄子（摂津 RC 推薦）
- 2002-03 年度 第 1050 地区 イングランド中西部派遣
中西 和也（千里メイプル RC）、太呉 まどか（枚方 RC 推薦）、
佐野 友美（大阪ちゃやまち RC 推薦）、小池 重一（大阪うつぼ RC 推薦）、
岡田 清重（大阪心斎橋 RC 推薦）
- 2005-06 年度 第 2390 地区 スウェーデン南部派遣
西野 博子（大阪イブニング RC）、梅辻 真希（大阪北 RC 推薦）、
金谷 美加（交野 RC 推薦）、桂川 直子（高槻西 RC 推薦）、
永野 里美（大阪西 RC 推薦）
- 2006-07 年度 第 2430 地区 トルコ派遣
田中 潤治（大阪西北 RC）、生田 英輔（大阪天王寺 RC 推薦）、
櫛原 佳代子（大阪南 RC 推薦）、小林 隆一（大阪西北 RC 推薦）、
牧 香代子（大阪船場 RC 推薦）
- 2008-09 年度 第 1770 地区 フランス派遣
野村 正勝（箕面中央 RC）、荘 リサ（大阪南 RC 推薦）、
福元 妙子（東大阪東 RC 推薦）、山本 茂雄（大阪イブニング RC 推薦）、
和田 聡子（吹田 RC 推薦）
- 2009-10 年度 第 5870 地区 米国テキサス州派遣
佐藤 俊一（大阪鶴見 RC）、松永 圭司（八尾中央 RC 推薦）、
吉田 章夫（大阪イブニング RC 推薦）、倉橋 明日香（大阪北 RC 推薦）、

端山 信吾（大阪西南 RC 推薦）、大本 尚美（大阪鶴見 RC 推薦）

○2010-11 年度 第 3220 地区 スリランカ派遣

泉 博朗（大阪手塚山 RC）、江藤 良介（大阪西 RC 推薦）、

西村 卓也（大阪南 RC 推薦）、貴元 亜希子（大阪ネクスト RC 推薦）、

寺川 晋一（寝屋川 RC 推薦）

○2012-13 年度 第 1890 地区 ドイツ北部派遣

吉崎 広江（東大阪東 RC）、伊藤 耕志（千里メイプル RC 推薦）、

佐賀 亜希子（大阪西 RC 推薦）、田野実 秀介（東大阪みどり RC 推薦）、

墨 紗也香（東大阪 RC 推薦）

付録DVD保存データ

○派遣報告書類

- ・ 1980-1982年度 豪州派遣チーム報告書
- ・ 1986-1987年度 西ドイツ派遣チーム報告書
- ・ 1988-1989年度 デンマーク派遣チーム報告書
- ・ 1990-1991年度 米国ノースカロライナ州派遣チーム報告書
- ・ 1993-1994年度 米国ネブラスカ州派遣チーム報告書
- ・ 1994-1995年度 スウェーデン受入チーム報告書
- ・ 1995-1996年度 ブラジル派遣チーム報告書
- ・ 1996-1997年度 ニュージーランド派遣チーム報告書
ニュージーランド受入チーム報告書
- ・ 1997-1998年度 米国アーカンソー州派遣チーム報告書
- ・ 1998-1999年度 カナダオンタリオ州派遣チーム報告書
IM3・4組受入報告書
- ・ 1999-2000年度 イングランド北東部派遣チーム報告書
- ・ 2000-2001年度 オランダ派遣チーム報告書
- ・ 2001-2002年度 米国ウィスコンシン州派遣チーム報告書
派遣団員募集チラシ
- ・ 2002-2003年度 イングランド中西部派遣チーム報告書
- ・ 2005-2006年度 スウェーデン派遣チーム報告書
スウェーデン受入チーム報告書
- ・ 2006-2007年度 トルコ派遣チーム報告書
トルコ受入チーム報告書
トルコ派遣チームパンフレット
トルコ受入チームパンフレット
トルコチーム歓迎晩餐会次第
- ・ 2008-2009年度 フランス派遣チーム報告書
フランス派遣チームスケジュール表
派遣団員募集チラシ
- ・ 2009-2010年度 米国テキサス州派遣チーム報告書
米国テキサス州受入チームパンフレット

- ・ 2011-2012年度 スリランカ派遣チーム報告書
 スリランカ派遣団員募集チラシ
- ・ 2012-2013年度 ドイツ派遣チーム報告書
 ドイツ受入チームパンフレット

○第2660地区 研究グループ交換(Group Study Exchange)を振り返って（2015年9月）冊子データ

○GSE紹介動画（1999年作成）

○2014年9月6日GSE振り返り会資料

- ・ 2660地区のGSEの振り返り動画
- ・ 2009-2010年米国テキサス州派遣チーム発表用パワーポイントデータ
- ・ 2005-2006年スウェーデン派遣チーム発表用パワーポイントデータ
- ・ 1990-1991年米国ノースカロライナ州派遣松岡茂雄団長発表用パワーポイントデータ